

血液透析は1回4時間、週3回の治療を基本とし、技術的にも進歩・発展して今日の標準的透析法が確立された。しかし、透析患者の高齢化は進み、合併症の多様化もみられている。今日では一人ひとりの透析患者の病態を正確に把握したうえで最良の透析処方を実践することが重要と考えられている。また、それらに関する管理技術についても最良の技術を提供することが重要となっている。

本特集では、「標準血液透析を再考するー最良の透析処方・管理技術とは」と題し、初めに血液透析処方の選択、透析膜・血液浄化器の選択、透析スケジュールによる影響、透析量の評価法、ドライウエイトの設定法の5つの項目とし、一人ひとりの患者に最適な治療法と透析膜の選択方法、透析スケジュール、透析量、ドライウエイトの設

定について解説いただいた。次に透析液・補充液の処方、導入期患者への透析処方、高齢者に対する透析処方、小児に対する透析処方の4つの項目とし、透析液・補充液と導入期患者、高齢者、小児に対して最良の透析を施行するための透析処方を解説いただいた。そして最後に透析液清浄化管理技術、透析における安全管理技術、透析患者のデータ管理技術の3つの項目とし、最良の透析を施行するための透析における管理技術について解説いただいた。

本特集を熟読していただき、今後一人ひとりの透析患者に対して最良の透析が実践されることを望む。

山下芳久
(本特集共同企画：峰島三千男)

2019年(Vol. 35)特集のご案内

- No.① 透析患者の糖尿病管理の新展開
- No.② 透析患者における電解質・酸塩基平衡異常ー透析液を含めて
- No.③ 慢性腎臓病の看護実践をリフレクションする
- No.④ 透析患者の残腎機能
- No.⑤ 透析医工学の最前線
- No.⑥ AKI 診療のエビデンスと課題
- No.⑦ CKD 患者におけるがん化学療法ー透析患者を中心に〔増刊号〕

- No.⑧ 既存のガイドラインを透析患者にどう活用するか
- No.⑨ 標準血液透析を再考するー最良の透析処方・管理技術とは
- No.10 在宅血液透析の勧めー円滑導入のためのノウハウ
- No.11 その人らしい生活を支える透析看護

(既刊は○)

臨牀透析® Vol.35 No.9

©2019年8月10日発行
定価：(本体2,600円＋税)

年間予約購読は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <http://www.nmckk.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2019, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所／株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話(03)3814-8541